

# 陳述書

住所 東京都葛飾区小菅1丁目35-1

氏名 天野遥

## 1 逮捕前の生活

1988年生まれの36歳です。



2018年11月当時は、貿易、ホームページ作成、Webコンサルティング、レストラン・バー、歯科医院、訪問看護ステーション、保育士・看護師等の人材紹介、電子看板デザイン、映像制作、生命保険代理店、iphone修理、携帯電話販売店、金券ショップ等、多数の事業を行っていました。

その他にも多数の事業計画や進行中のプロジェクトがありました。

## 2 逮捕・勾留

2018年11月28日、突然逮捕されました。当時、30歳でした。

詐欺被疑事件と言われて被疑事実を読み上げられましたが、何のことか全くわかりませんでした。

11月30日には勾留され、接見等禁止決定もされました。

その年の12月18日に起訴されました。その後、2回再逮捕され、8回の追起訴がありました。最後の追起訴は、2020年5月7日でした。なお、訴因は組織的な犯罪の処罰及び犯罪収益の規制等に関する法律違反被告事件に変わりました。

第一回公判は、2021年6月24日でした。第一回の公判までに逮捕から約2年7ヶ月かかりました。

私は、組織的詐欺への関与が疑われていますが、一切関わっていません。裁判では一貫して無罪を主張しています。

裁判は今も続いています。今年の10月に論告と弁論が予定されていますが、判決日はまだ決まっていません。

2024年12月と2025年4月に保釈請求をしましたが、いずれも却下されました。

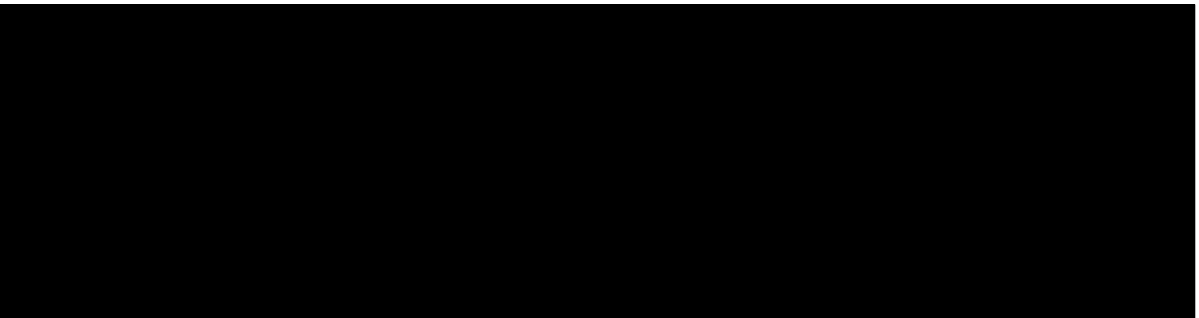
### 3 身体拘束による被害

#### (1) 社会的なつながり、人間関係の断絶

2018年11月28日以来、6年7ヶ月以上もの間、時計もない、3畳ほどの独房に拘禁されています。

さらに、同じ期間、接見等禁止により、原則弁護人以外と会話ができない状況が続いています。

この間、家族、友人、知人の数人が亡くなりました。会うこともできず、葬儀にも出席することができませんでした。



#### (2) 健康上の損害

劣悪な環境、粗末な食事により、逮捕からわずか2ヶ月で体重が約25kg減少しました。

変形性膝関節症、母指CM関節症との診断を受けました。

しかし、診断を受けたのみでその後治療は一切行われていません。

医師の診察も受けていません。放置されています。

1年に1回体重と血圧を測るだけで、それ以外検査や診察も行われていないためその他の病気の有無や健康状態は不明です。

### (3) 経済的損害

経営していた複数の会社や運営していたレストラン等の店舗の閉鎖を余儀なくされました。銀行からの融資は停止され、クレジットカードは解約され、多数の契約が打ち切られました。自分自身の収入もゼロになりました。これから手掛けるはずだった事業も頓挫しました。

従業員も取引先も社外で力になってくれる人も沢山いました。沢山のの人に迷惑がかかりました。

全身全霊をかけてやっていた事業を失った気持ちは言葉にすることが難しいです。

### (4) 防御権の侵害

刑事裁判の主要な争点の一つは、傍受記録と呼ばれる警察官が録音した電話の音声に関する証拠の証拠能力ですが、拘置所では傍受記録を再生する機器が使用できません。DVDを再生する機器を買うことを認めてほしい、弁護人からの差入れを認めてほしい、貸してほしいと拘置所に頼みましたが、全て認められませんでした。そのため、録音された電話の音声を自分で確認することができませんでした。弁護人の手元には録音された電話の音声保存されたDVD13枚があり、保存された音声ファイルの数は約1000個です。接見室で弁護人が再生し、確認することは現実的に不可能でした。

また、刑事裁判では、検察官が「活動拠点」と主張するビルの出入りを撮影した動画も重要な証拠とされています。DVDを再生する機器が使用できないために、この動画も自分で確認することができませんでした。動画は、1日24時間、約1年半あり、そのデータは3.12テラバイトです。弁護人が接見で再生して確認することは不可能でした。

このように逮捕勾留されているせいで、検察側の証拠を自ら確認することができませんでした。

また、検察側の主張や証拠に反論するための調査も自分で行いたいと思っても、拘置所ではそれもできません。こちらの主張を裏付ける証拠の入手も全くできません。例えば、自分自身のメール、銀行・クレジットカードの明細、PCやスマホ内のデータ等、勾留されていなければ容易に確認できるものも、拘置所の中では確認することができません。

## 4 提訴への想い

世の中の99%の人は「刑事司法はちゃんとしている」という幻想を抱いていると思います。

私に起こっている出来事は特殊な例ではありません。

「人質司法」は、著名人の事件だけではなく、当たり前のこととして起きています。

そういうシステムの実態が明らかとなり、改善への第一歩になれば、と願っています。

以上

2025年 7月 7日

天野 遥